

# 会報

(No.454)

2013年1月

題字：故津村 重舎元会長



レンギョウ (写真提供：磯田 進 学術委員)

社団法人 東京生薬協会

Tokyo Crude Drugs Association

# 新年のごあいさつ



東京都福祉保健局健康安全部長 中谷 肇一

新年あけましておめでとうございます。

東京生薬協会の皆様方におかれましては、よき新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から都の薬務行政に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今日、新型インフルエンザをはじめとする新興感染症の脅威や、違法(脱法)ドラッグの乱用、食の安全性の問題など、都民の安心・安全な暮らしをおびやかす問題が次々と発生しています。こうした様々な健康危機から都民の生命と健康を守るため、都は、健康危機管理の技術的拠点として、健康安全研究センターの機能強化を図りました。昨年4月に組織改正を行うとともに、6月には最新の設備や機器を備えた本館を開設し、健康危機への対応を一層強化したところです。

貴協会に管理運営を委託しております薬用植物園は、同センターにおける医薬品研究の重要な役割を担っており、貴協会による熱心な薬用植物の育成栽培は、センターの事業運営に大きく貢献しております。また、工夫を凝らした資料展示や多様なイベントの開催は来園者の評判も高く、委託から6年目となり、これまで以上に都民に親しまれる施設として定着しました。重ねて御礼申し上げます。

さて、昨年は、若者を中心とした薬物乱用が大きな社会問題になった一年でした。違法(脱法)ドラッグは、麻薬・覚醒剤等と異なり、法規制の網をすり抜け、「合法ドラッグ」や「合法ハーブ」と称して販売されるため、あたかも安全であるかのような誤解を与えてしまいます。指導・取締りの強化と共に、正しい知識を定着させるための啓発活動がきわめて重要です。これからも皆様との連携を密にして、地域に根ざした普及啓発活動を推進してまいります。

また、今年には東京都薬物乱用対策推進計画の次期計画を策定する年です。違法(脱法)ドラッグ対策の強化をはじめ、今後5年間の薬物乱用対策の方向性を明確にするとともに、着実に社会問題の解決に結びつくよう、しっかりと取り組んでまいります。

東京生薬協会の皆様におかれましては、これまで生薬や漢方薬が伝統と実績に基づき、国民に信頼され支持されてきたことを踏まえ、今後とも、都民の保健衛生の向上に貢献されますことを期待しております。

結びに、皆様の御健勝と益々の御繁栄を祈念いたしまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。

# 新年のごあいさつ



社団法人東京生薬協会 会長 **藤井 隆太**

新年おめでとうございます。近年の環境変化はまさに「激動」と言えますが、長い歴史のある当協会こそ、常に変化を先取りした活動を目指したいと思います。以下に私自身の最近の活動と将来展望をまとめました。

## 【国内での生薬栽培事業】

生薬製剤を主力とする製薬企業にとって生薬原料の調達は大きな課題です。

しかし昨今の国際問題に起因する課題は価格の高騰に留まらず、調達そのものが不安となっており座視できません。今こそ主体的に行動する時だと思います。

当協会は昨年、秋田県八峰町と生薬の試験栽培に関する協定を締結する一方、江戸時代に秋田藩の甘草栽培地であった秋田県美郷町でも、町有地を活用した栽培を計画中です。

是非とも近い将来、日本国内で安全に栽培された高品質の生薬原料によって、製品の安定供給のみならず、製品自体の国際的な競争力向上にも貢献したいと考えます。

## 【セルフメディケーションイベント】

東京都と厚生労働省の後援を頂き新宿西口で開催されている「良く知って正しく使おうOTC医薬品」イベントには、昨年初めて協賛団体として東京商工会議所千代田支部が加わりました。これは私自身が日本商工会議所・東京商工会議所の社会制度改革検討委員会に参加している中で、如何に世の中で「セルフメディケーション」が理解されていないかを痛感したからであります。生活者自らが健康管理は自己責任が原則であることを認識し、公的医療費の削減に目を向ける為には、受益者の代表でもある経済団体との連携は効果的であると思っています。今後は商工会議所本部との連携も目指します。

## 【海外展開事業】

4月には東京で開催された香港貿易発展局主催の晩餐会に招かれ、翌日には香港の業界関係者と業界間の情報交換を行いました。香港人には勿論のこと、中国からの渡航者にも日本製の生薬製剤がいかに信頼されているか改めて確認できました。

7月には日経CNBC「アジアエクスプレス」に出演し、日本の家庭薬が世界的にも高く評価されており、東京都薬用植物園や東京都健康安全研究センターの存在と共に、生薬に関する技術は我国が世界をリードしている点をアピールしました。

8月には恒例のICMCM(現代化中医薬協会)に共同出展すると共に香港衛生署も訪れ、輸入申請などについて具体的な討議を行っています。

一方台湾では11月より量販店約200店の店頭で第3回目となる家庭薬の共同販促を行っています。今回は震災の復興支援に対する感謝をテーマにしています。

12月には台湾で台日商務交流協進会の幹部と会談し、日本の優良な生薬製品を更に多くの国に拡大する為、両国の業界が協力することを確認しています。

# 苦参の基原植物“クララ”について

● 城西大学薬学部 教授 白瀧 義明 ●

生薬クジン(苦参)は、第16改正日本薬局方において『本品はクララ *Sophora flavescens* Aiton (Leguminosae) の根で、しばしば周皮を除いたものである。』と記されている。<sup>1)</sup> 苦参は神農本草経の中品に収載され、別名を地槐、水槐、大槐、驕槐、野槐などと称し、李時珍は「苦とは味から、参とは功能から名付けたものだ」といい、また、「槐(エンジュ *Sophora japonica* L.) とは葉の形から名付けた」ともいつている。<sup>2)</sup> 薬味・薬性は苦・寒で、古くから解熱、利水、温補の薬物として苦参湯、三物黄芩湯、消風散などの漢方処方用いられているが、今日では苦味健胃、解熱、利尿薬、駆虫剤として、また、煎剤は慢性の湿疹、汗疹などに用いられている。



日本では長野県などに多少の産出はあるものの、中国(主に河北省)、韓国から年間約30トンが輸入されている。生薬の性状として、本品は円柱形を呈し、長さ5~20cm、径2~3cm、外面は暗褐色~黄褐色で、著しい縦じわがあり、また横長の皮目を認める。周皮を除いたものは黄白色で、表面は多少線維性である。横切面は淡黄褐色で皮部の厚さ0.1~0.2cm、形成層付近はやや暗色を帯び、木部との間にすき間を生ずるものがある。本品はわずかににおいがあり、味は極めて苦く、残留性である。基原植物のクララの名は、眩草(クララクサ)が省略されたもので根汁をなめると、あまりにも苦いので目が眩む程であるということにより、別名をクサエンジュ、ウジコロシ、キツネササゲと言ひ、古名をマトリグサ(末止利久佐)と言ひ、クララはシベリア、中国、朝鮮半島、日本に分布し、

本州、四国、九州の山野に自生するマメ科の多年生草本で、高さ60~150cm、茎は叢生し、下方はやや木質、上方は分岐し直立する。葉は互生、奇数羽状複葉、小葉は7~10対、狭長楕円形~広楕円形で長さ2~4cm、6~7月に総状花序を頂生し、淡黄緑色まれに帯紫色の蝶形花を密に付け、莢は長さ7~8cm、種子の間がくびれた細い円柱形を呈する。<sup>3,4)</sup> と記載され、オオルリシジミ(蝶)の食草としても知られている。

成分に関しては、アルカロイドについて長井、近藤ら<sup>5,6)</sup>をはじめとする一連の *matrine* 系アルカロイドに関する多数の研究報告があり、主成分の *matrine* (1~2%)、副成分として *oxymatrine*、*sophoranol*、*anagyrine*、*isomatrine* などを含む。又、フェノール成分については小松ら<sup>7-9)</sup>による *isoanhydroicaritin*、*kurarinone*、*kuraridin*、*kuraridinol* や Wu ら<sup>10)</sup>による *kushenols* などのフラボノイドに関する研究、サポニンについて吉川、Ding ら<sup>11,12)</sup>による *sophoraflavosides I~IV* などの報告がある。

薬理活性については、50%メタノールエキス及び *matrine* のストレス胃潰瘍発生子予防効果やメタノールエキスのラット十二指腸内投与での利胆作用。*Matrine* の解熱作用、胃底切片収縮及び胃運動抑制作用、体温下降などの中枢抑制作用、神経筋標本におけるグルタミン酸遮断作用等が報告されている。またフラボノイドはマウスのクロロホルムによる心室細動、ウサギのクロロホルム-アドレナリンによる不整脈、ラットのアカニチンによる不整脈の減少作用、*kurarinone* など7種のフラボノイドは抗菌作用、*ℓ*-*maackiain* は抗皮膚糸状菌作用、*kurarinone* は抗真菌作用、*vexibinol* は抗胃潰瘍作用、*kurarinone*、*kushenol A*、*kuraridin* は環状AMPホスホジエステラーゼ阻害作用を示す。酢酸エチル及びこのエキスより分離した *vexibinol*、*kurarinone* はラット摘出胸部動脈標本においてKClとノルアドレナリンにより惹起される動脈収縮の抑制作用等が報告されている。<sup>1)</sup>



苦参の基原植物であるクララについては、中国産と日本産があり、中国産のものをヒロハクララ（トウクララ）*Sophora flavescens*、日本産のものをクララ *Sophora angustifolia* とする説もあるが、日本植物誌では、クララ *Sophora flavescens* に統一されている。2, 7, 13, 14)

近年、福田ら<sup>15-17)</sup> は、中国産と日本産クララでは、地下茎に形態的な違いがあり、前者では直立根茎から横走する根茎が認められるのに対し、後者ではそれが認められない。この地下茎の形態的な違いは、中国産クララと日本産クララとが分類学的に異なる可能性のあることを報告している。今回、私たちのグループでは、これまで行ってきたフラボノイドの HPLC 分析で両者を区別するマーカー成分の探索に加え、<sup>1</sup>H-NMR スペクトルを用いたメタボロミクス的手法により中国産クララと日本産クララの比較を行い、その違いの一部を明らかにすることができた。以下、その研究を紹介したい。<sup>18, 19)</sup>

中国産および日本産クララの根をメタノール抽出し、そのジエチルエーテル可溶部を HPLC 分析、及び <sup>1</sup>H-NMR 測定に供し、<sup>1</sup>H-NMR データを主成分分析 (PCA) した。

まず、HPLC 分析については、図 2 より日本産クララ (No. 4) と中国産クララ (N. 6) の成分を HPLC で比較したところ、日本産クララでは中国産に見られない 2 本の特異的なピークを認めた。このピークは構造解析の結果、それぞれ kurarinol (1)<sup>9)</sup> と kushenol H (2)<sup>20)</sup> と同定された。このことより 1 と 2 は中国産と日本産を区別する指標成分となることが明らかとなった。さらに韓国産クララにおいては 1 と 2 のピークを認めたが、その他にも今回、同定できなかつた多くのピークを認め、これらについては今後、成分研究を行う予定である。

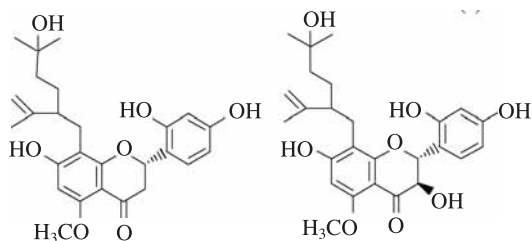


図 1：kurarinol (1)、kushenol H (2) の構造式

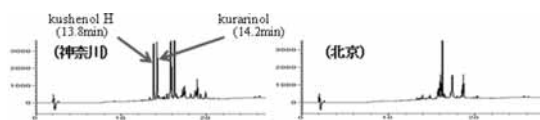


図 2：日本産(神奈川、No.4)、中国産クララ(北京、No.6)のHPLC

No	Sample name	Growing area	Harvest time (Month, Year)
1	Kagoshima	Japan	10.2010
2	Shiga	Japan	10.2010
3	Tokushima	Japan	10.2010
4	Kanagawa	Japan	3.2011
5	Yamanashi	Japan	3.2008
6	Beijin-1	China	10.2010
7	Beijin-2	China	10.2010
8	Beijin-3	China	3.2008
9	Shanghai-1	China	10.2010
10	Shanghai-2	China	10.2010
11	Shanghai-3	China	3.2011
12	Hangzhou-1	China	10.2010
13	Hangzhou-2	China	3.2011
14	Hangzhou-3	China	3.2008
15	Hangzhou-4	China	9.2009
16	Kujin	China	---

表 1：実験に使用したクララ

次に、<sup>1</sup>H-NMR スペクトルを用いたメタボロミクスでは、日本産クララと中国産クララをメタノール抽出し、そのジエチルエーテル可溶部の <sup>1</sup>H-NMR スペクトルを PCA したところ、これらは産地別にクラス分けすることが出来たことから、日本産と中国産は成分に違いがあることが明らかとなり、さらに loading plot 解析から、クラス分けに寄与しているのは 0.95 ppm 付近のシグナルであり、これは日本産クララに特異的に含まれているプレニルフラボノイドの 1、2 に存在する lavandulyl 基の methyl 基由来のシグナルであることが判明した。<sup>21)</sup> このことから、NMR メタボローム解析によって日本産クララと中国産クララとの識別が可能であることが示された。

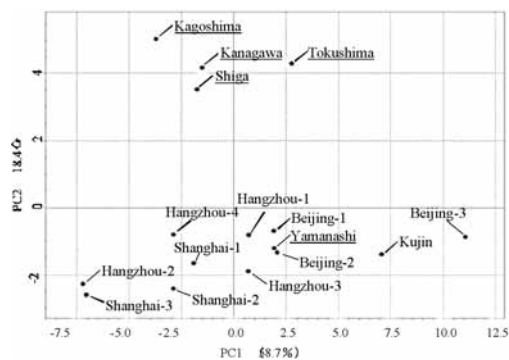


図3：PC1、PC2のPCAスコアプロット。  
下線部のクララは日本産である。

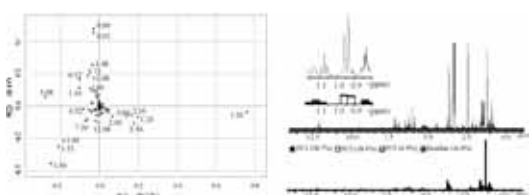


図4：PCAにより得られた各種クララのローディングプロット。PC1 (黒)、PC2 (白)、PC3 (灰色)、その他 (斜線)。

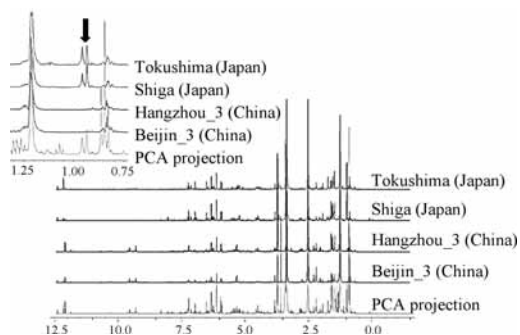


図5：日本産、中国産クララのジエチルエーテル可溶部の<sup>1</sup>H-NMR スペクトル。矢印は日本産クララに特異的なシグナルを示す。

また日本産でありながら、PCAで中国産のクラスに分類された山梨県富士吉田市産 (No. 5) には日本産に特異的な0.95ppm付近のシグナルが検出されなかったことから、中国産クララにクラス分けされたと考えられる。まだ、本研究は試験例が少なく、十分な結果を得ていないが、メタボロミクスが生薬の基原を明らかにするうえで、非常に有効な手段と成り得ることを示したのものとして興味深く、今後、さらに試験例を増やしていきたい。

[参考文献]

- 1) 第16改正日本薬局方解説書、(廣川書店) 医薬品各条生薬等、D208-211 (2011)。
- 2) 和漢薬百科図鑑 [ I ]、難波恒雄著、(保育社) p106-107 (1980)。
- 3) 中薬大辞典第1巻、上海科学技術出版社、(小学館) p583-585 (1985)。
- 4) マメ科資源植物便覧、近藤典生監修、内田老鶴圃 p332 (1987)。
- 5) Nagai N. *et al.*, *Yakugaku Zasshi*, **23**, 993-1020 (1903)。
- 6) Ueno A. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, **23**, 2560-2566 (1975)。
- 7) Komatsu M. *et al.*, *Yakugaku Zasshi*, **90**, 463-468 (1970)。
- 8) Hatayama K. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, **19**, 2126-2131 (1971)。
- 9) Kyogoku K. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, **21**, 2733-2738 (1973)。
- 10) Wu L.-J. *et al.*, *Yakugaku Zasshi*, **106**, 22-26 (1986)。
- 11) Yoshikawa M. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, **33**, 4267-4274 (1985)。
- 12) Ding Y. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, **40**, 2990-2994 (1992)。
- 13) 新訂和漢薬、赤松金芳著、医歯薬出版p339 (1970)。
- 14) 改訂増補版日本植物誌顕花篇、大井次三郎著、至文堂p785 (1975)。
- 15) 福田 達男、日本生薬学会第49回年会講演要旨集、p83 (2002)。
- 16) 石川 寛 ほか、日本生薬学会第55回年会講演要旨集、p143 (2008)。
- 17) 石川 寛 ほか、日本薬学会第130年会要旨集、29P-am195 (2010)。
- 18) 池田 由里子 ほか、日本生薬学会第57回年会講演要旨集、p297 (2010)。
- 19) 齊間 豊恵 ほか、日本薬学会第132年会要旨集、30P1-am039 (2012)。
- 20) Wu L.-J. *et al.*, *Yakugaku Zasshi*, **105**, 736-741 (1985)。
- 21) Suzuki R. *et al.*, *Natural Product Communications*, **7**, 1453-1455 (2012)。

# 月下美人にあやかりたい

・ 明治薬科大学 名誉教授 奥山 徹 ・

月下美人と出会い、美人に強く惹かれる

現役時代の研究室では、“美人のエキス”を入手するために、種々の奇麗な花を集めては抽出・単離を試みました。私こそは参加したいという女子学生・大学院生の協力を得て、研究は順調に進みましたが、“美人エキス”を入手する目標達成には至りませんでした。

退職後の今は、ますます美人に縁のない日々ですが、美人・フェロモンを追い求めることは永遠のテーマとしております。

研究材料としても利用した、我が家の「月下美人」は今年の6月末～8月に何度か花を咲かせましたが、長月・晩秋の遅い時期の9月25日からの三夜に渡り順次、沢山の花を咲かせました。



我が家では開花前の蕾を含め、約40個の花を咲かせた

## ゲッカビジン・月下美人

ゲッカビジン (*Epiphyllum oxypetalum*、英名A Queen of the Night) はメキシコ熱帯雨林地帯を原産地とするサボテン科の常緑多肉植物です。

属名のエピフィラム (*Epiphyllum*) は“葉の上の”を意味する通り、茎節ではありますが、大きく偏平な葉が特長で、先きが尖っております。この茎節の端に蕾を付け成長し、花は夜の8時頃に咲き出し、長さ30cm、直径17cmほどの大輪を咲かせます。花の一番外側の花弁は赤みをおび、種小名 (*oxypetalum*) のとおり、先がとがっております。花 (美人) は短命で3時間程で萎み出します。花が咲いている間は強烈な匂いを発します。

## ゲッカビジンは何故、夜に花を咲かせるのか

普通の種子植物は日中に花を咲かせるが、夜に花を咲かせる植物は夜行性の動物・花蜜色の哺乳類やハエ等の昆虫に送粉 (受粉) されているようです。

ゲッカビジンの送粉者としてはコウモリとガやハエ等の昆虫が知られております。更に、光がほとんどない夜の世界で活躍する送粉者にとって重要な感覚は嗅覚であり、ゲッカビジンの濃厚な匂いに惹かれるようです。また、夜の月光などわずかな光の中であって、真っ白な花がその役割を果たしているようです。

## 月下美人としての品種

『月下美人・クジャクサボテン』三橋 博、NHK趣味の園芸より引用

歌麻呂美人：月下美人の交配種で花はやや小型、果実は丸みが強い

鳳凰の舞：花粉が黄色、葉が幅広く大型

宵待孔雀：薄緑色の蕾が上向き、上向きに咲く

満月美人：月下美人と姫月下美人の交配種

夜の女王：蔓生で茎節が長く伸びる

白眉孔雀：原種の一つ、椰子の木等に着生する

姫月下美人：花期が長く数多くの花を付ける。

香りが強い。

ダラヒー：中型の原種の一つ

エル・テコロテ：日中でも花が咲く



## 食べられるゲッカビジン・月下美人がある

一般の家庭で栽培しているゲッカビジン・月下美人には果実をつけないが、最近の研究・栽培技術、品種によっては果実を付けるものがあります。

日本に広く普及している株は、原産地の特定の株から挿し木や株分けで増やされた、同一クローンではないかと言われてきました。1980年代に、東京農業大学の研究グループは原産地で別のクローンを持つ株の増殖を行い、多くの品種改良を行ってきたようです。三橋 博氏は、台湾農場で品種改良を行い、食べられる月下美人を作出（1989年）したものを紹介しております。果実には赤熟赤肉と白熟白肉のものがあり、やや細長い12～15cmに成長するようです。

台湾ではゲッカビジンの花を「雲花」として、スープに用いているようです。

## 我が家での月下美人を活用する

我が家の月下美人は、40年程前に恩師・故小林美代子先生から頂いた株を増やしてきたもので、一般的な品種と思われます。

- 多くの知人にも株分けをする
- 大学では、花が咲けば学生達も大喜び



研究室で大喜びの女子学生達

- ある時期までは、研究材料として沢山の花を集める
- 満開の花をブランデー、焼酎漬けにして、美人のエキスを愛飲する



華麗な花をブランデー漬けにして、美人エキスを味わう

- スープにして、美人と語り合う



満開の花は惜しげもなくスープにして、美人にあやかる

## ゲッカビジンとクジャクサボテンの違い

「ゲッカビジン・月下美人」と「クジャクサボテン」(Jungle Orchid Cactus、森林性ランサボテン)はいずれも柱サボテン系で、多くの点で共通性が見られ、共に夜の8、9時頃に咲き出し、良く間違われやすいようです。両者の大きな違いは、月下美人は数時間で花がしぼんでしまう一夜花ですが、クジャクサボテンは翌日の日中も咲き続ける昼夜花です。

# 生薬の有用性散策(5) 防已

## —日本の防已の来歴(1)—

• 元北里大学 生命科学研究所 布目 慎勇 •

### 1. はじめに

防已は基原や名称の複雑な生薬であり、前回は中国産防已の歴史を整理したが、今回は日本の防已の来歴について述べる。

日本では6～7世紀頃に防已の名が知られ、現在では主として日本に自生するオオツツラフジの茎、根茎が用いられる。中国には数種の防已が回っており、その基原や名称の複雑さは主に植物形態の変異と記述の曖昧さに由来すると考えられる。一方日本に防已が伝来して以降の変遷を検討した資料はほとんど見当たらない。

江戸時代、漢方の主流であった古方派は実証主義的立場から治療を行ったとされるが、どの様な防已を用いて効果を確認してきたのか興味を持たれる。そこで防已が日本に伝えられて以来、どの様な経緯を辿って現在に至ったか、時代の背景も加えて整理・考察した。

### 2. 伝来～安土桃山時代

#### 1) 伝来～平安初期

—薬物の自給に努力—

薬物の重要性は奈良時代以前から認識されており、554年には日本の要請で百濟から採薬使が来日したとの記述(『日本書紀』)がある。来日の際には諸国を巡り、薬草を教授したことであろう。厩戸皇子(聖徳太子)は「薬は民を養う要物なり。厚く之を畜うべし」と天皇に進言し、薬草の採取や貯蔵を奨励し薬狩りも行われている。

律令制のもとで典薬寮や薬園が設立されるとともに、諸国進年料雑薬(年料雑薬)として各地から薬物を貢納させており、当時から薬物に対する知識や品質に対する理解が進んでいたと考えられる。『出雲風土記』や『大同類聚方』など薬物を記した書籍が数点あり、また後述する『本草和名』には薬物の和名が付され、『延喜式』に産地が記されているのはその表れといえよう。

防已が日本で知られるようになるのは、562年に伝来した「内外典・薬書・明堂図164卷」等の漢医籍、あるいは奈良時代初期の医学教科書として採用された『本草経集注』(陶弘景、6世紀初期)であろう。天平年間(729～749)には『千金方』(孫思邈、7世紀中葉)が伝来し広く活用されるが、本書には防已、漢防已、木防已の名も収載されており、主に風湿、水腫に用いる処方に応用される。当時は中国産薬物が自由に入手できず、防已に相当する薬草を国内で探し求めたと思われる。

#### 2) 平安中期

—防已の和名をアオカズラとして明記—

平安時代中期には遣唐使が廃止(894)され、中国との人物交流や薬物などの輸入が途絶えることになる。輸入薬物は自給に迫られ、相当品や代用品の和名や産地が記されるようになる。

●『本草和名』(深根輔仁、918):日本に現存する最古の本草書であり、防已の別名として解離、石解木防已、解推、離名、解燕などの名が記され、和名を阿乎迦都良(アオカヅラ)としている。

前報で示した如く、防已の横断面の模様は車輪状のものと、車輪が崩れたものがあり、両者は比較的区別しやすい。従って当時日本に齎された防已は前者、即ちオオツツラフジ類の茎に類似したものと推測される。

●『延喜式』(藤原時平ら、927):典薬寮の「諸国進年料雑薬」の項には国内各地から貢納された多数の薬物が収載されている。その中には防已、木防已の産地と数量が記されており、駿河:防已10斤、伊豆:木防已10斤、安房:木防已1斤、上総:木防已10斤、周防:防已6斤とある。

現代のオオツツラフジの分布は関東以西、四国、九州であり、房総半島や伊豆、高知に生育することを確認している。「諸国進年料雑薬」に記された産地と比較すると共通地域が多いことから、平安時代に用いられた防已はオオツツラフジの可能性が高い。当時は薬物について相当品や代用品の探索に尽力し、一定の識別力を有していたことが窺える。

●『医心方』(丹波康頼、984):現存する最古の医書であり、防已、木防已を配合した処方も見受けられる。防已の異名には房已の名も見られ、和名として阿乎加都良、佐佐加都良(サネカヅラ)を上げている。サネカヅラはマツバサ科の蔓性植物で、平安時代から果実は五味子として用いられてきた。当時はアオカヅラ以外に、サネカヅラの茎も防已として代用した可能性もあるが、以後の文献には見かけない。

カヅラはツツラとも呼ばれ、蔓性植物の総称である。アオカヅラの別名にアオツツラ、ツツラフジがあり、今でもオオツツラフジをアオカヅラと呼ぶ地域もある。なお現在アオカヅラは通常アワビキ科の*Sabia*属植物であるが、茎には鉤が見られ根も大型であり、ツツラフジ科の防已とは異なった形状である。またアオツツラ(アオツツラフジ *Cocculus trilobus* DC.)とツツラフジ(オオツツラフジ *Sinomenium acutum* (Thunb.) Rehd. et Wils.)は



いずれもツヅラフジ科に属する別種である。蔓性植物は周囲の環境により形態に大きな変化が見られるため、判別が難しかったのであろう。

### 3) 平安後期～安土桃山時代

—宋代～金・元～明代の医学の受容期—

平安時代後期には再び中国との交易が始まり、以後様々な医籍や薬物が齎されることになる。また主に僧侶により宋代から金・元、明代にかけての医学を受容した時代でもあり、独自の出版物は少ない。代表的な医書として『頓医抄』（梶原性全、1304頃?）、『万安方』（梶原性全、南北朝）、『福田方』（有林、1370頃）、『続添鴻宝秘略抄』（坂浄運、1508）、『啓迪集』（曲直瀬道三、1574）が上げられる。それら医書は中国の『千金方』、『和剂局方』、『太平聖恵方』、『聖濟総録』からの引用が多く、いずれも防已や木防已、漢防已を用いた処方が見られ、主に水分代謝、疼痛に関わる疾患に応用されている。

●『万安方』には「防已 和、唐」、「辛苦平温、無毒、解離一名也、子名木防已」と記されている。南北朝時代の防已は和産と中国産が用いられ、和産として平安時代からのアオカヅラ類が用いられたと考えられる。

しかし防已の性状や薬効の記述は安土桃山時代に至るまでほとんど見当たらないことから、『本草経集注』や『大観本草』、『和剂局方』など中国医籍の記述を活用していたのであろう。

### 3. 江戸時代

—外国との交流制限による医学の独自化—

江戸時代初期、外国との交流・貿易が制限され、日本の医学も古方派を中心に独自化の道を歩み始める。薬物も江戸中期の「享保の改革」により栽培も盛んになり、唐産、和産薬物の品質管理体制も整備されてくる。

#### 1) 江戸前期

江戸時代に最も大きな影響を与えた中国の本草書は、慶長年間に渡来した『本草綱目』（李時珍、1593）であり、幾度も翻刻が行われるとともに医書・本草書への引用も多数見受けられる。17世紀前半まで防已の性状や薬効はほとんど述べられて来なかったが、後半になって漸く本草書に記述され、独自性も見られるようになる。

●『多識編』（林道春、1612）：「防已 阿於豆豆羅 異名解離、石解」

林道春（羅山）は儒学者であり、『延喜式』の改定版に付録を増補し、その中で木防已の和名としてアオツヅラ、アオカヅラ、サネカヅラ、ツヅラ、ハマフシ、カミエビの名を上げている。『多識編』では防已をアオツヅラとしているが、ツヅラフジ類は植物と名前が統一せず、また木防已も多くの和名があり、近年に至るまで混乱が見られる。

●『本草弁疑』（遠藤元理、1681）：「防已 和あり唐あり。…私考えるに、漢・木の根、苗を以て名付け、主能を以て二つながら用いるの説、然る可し。其の餘の説はこれ誤りならんか。請う之を正せ。水気には漢防已を用いる可し。今渡りの所の者、車輻が解けた紋様ありて香氣甚だよし。是れ漢防已、真なるべし。風気には木防已を用ゆる可し。和に採るものを用いる可きか」

遠藤元理は京都の薬舗の主人で、本書には多数の中国の本草書を引用し、また自家での経験に基づき、当時流通していた薬物の真偽や加工などを詳述した実用的薬物書である。

本書では『本草綱目』の内容を整理して引用し、根を漢防已、茎を木防已、薬効は前者を水剤、後者を風剤として纏めている。なお和産のものについては使用部位や薬効を決めかねている面も見られる。

●『図解本草』（下津元知、1685）：「防已：アオツヅラ。苗は牽牛子（アサガオ）に似て、のち苧麻（カラムシ）葉に似たり。其の茎は葛の如く蔓延す。其の根、外は白く内は黄で桔梗の如し。内に黒紋あり車輻（クルマノワダチ）解の如きもの良し。皮を去り、刻みて酒にて洗い、曝し乾かし用ゆ」、「和は根を用いず、皆茎を専らと為す。防已は是れ風水を療する要薬なり」

下津元知は京都の人で、本書は『本草綱目』や『本草原始』などを参考にし、国内で採集した薬物を書き記している。和産防已の基原植物の性状を述べたのは恐らく本書が初めてであろう。防已の使用部位を茎とし、また漢防已の簡略な茎の断面図を掲載しており、放射状の模様はツヅラフジの仲間と推測される。

防已の薬効は陶弘景が「風水の気を療する」と記して以来、多くの文献に水分の多い地下部（漢防已）は水剤、風に晒される茎（木防已）は風剤と記されてきた。ところが本書では、和産防已は茎であるにも係わらず、水剤としても用いている。なお応用として『本草経集注』の記述を引用し、中風、手足の攣急、口や眼の歪み、疥癬、咳、大小便を利し、留熱を去るなどを上げている。

●『和語本草綱目』（岡本一抱、1698）：「防已（アオツヅラ）愚案するに、苦は疎泄し、辛は散通す。故に防已の苦、辛、寒なる者、下焦の湿熱、留滞壅塞を疎通すること、矛の盾を突くが如し。実に尋常の用い易き者に非ず。元気健やかに実熱の候あるに非ずんば用いる勿れ。修治 茎苗を木防已とし、根を漢防已とす」

本書は『本草綱目』からの引用が多いが、独自の記述も見られ、防已の五味と作用の矛盾を突いている。また応用は難しく、「元気で実熱ある者でなければ用いてはいけない」と自らの経験を述べ、使用部位についても従来の茎以外に根も用いると記している。

# 一本堂薬選を読む (15)

## 厚朴

・金匱会診療所 小根山 隆祥・

### 〔読み〕

### 〔試効〕

瘧疾 腹満 喘息 咳嗽、痰を消し、気を下す。  
痢疾 傷食 宿食消せず。乾嘔止まらず。風寒傷、  
翻胃、食を吐く。を療す。

### 〔撰修〕

凡そ、厚朴を撰ぶに、皮極めて厚くして紫色、  
気新たに、味わずかに辛き者を取りて佳となすなり。  
皮薄く陳久なるもの、及び此の邦に産する所、薬  
舗呼びて和厚朴と為す者を用いること勿れ。

厚朴固より、華産を以て良しと為す。

今の和厚朴と称する者は即ち俗間呼ぶところの福  
室の樹（ホウノキ）是也。

其の樹 喬大、皮赤くして、厚し。形状大いに華  
産の朴皮に類す。

味も亦近似す。但し、味微酸を帯び、人をして嘔  
せんと欲する意有り。

花実本草に録する所と大いに異なるなり。

蓋し、似て非なるものなり。庸医知らず、呼びて  
和厚朴と為して、これを用う。も亦、誤まらざるか。  
按ずるに、寇宗奭曰く、姜を以て制せざれば、人  
の喉舌を刺す。

此れも亦、審らかにこれを試さざるに由つてのみ。  
半夏の如き、乾喫するは咽を刺す。而して、厚朴  
乾嚼未だかつて喉舌を刺せず。

宗奭何の試みる所にして爾（シカ）云う耶（や）。  
或いは、その生なる時、人喉舌を刺する耶（や）。  
およそ、生は辛、乾けば甘。あるいは生乾 臭を  
殊にする者あり。

菜菔の如きは是也。此の如きの類、各生乾の時に  
随いて、気味良毒を分けて可なり。

泛く（アマネ）くこれを言はば、則ち通ぜず。

用ゆる時、外面鱗皴の阻皮を刮り去り、白膚を留  
むること勿れ。

内の紫色の所を取り、水を換えて数洗し、挫み細  
かくにす。

姜汁を用いて、浸すことを須いず。

況や、酥（ソ）を用いることをや。

但、略炒り用いて、乃ち可なり。

### 〔辨正〕

厚朴 平穩尋常用ゆべきの薬物のみ。而して、  
前輩 承気湯の中、枳朴あるを視て、以て甚だし  
く畏るべきの物と為す。

乃、謂う。枳実厚朴大いに、元気をもらす。と  
此のこと、ひとたび出て、声に吠えるの徒、相隨  
いて雷同す。

実に自試せず。遂に、世の大害をなす。勝えて（タ  
エテ）嘆ずべきかな。

凡そ、我が門、自ずから用いるは人に施す日に用  
いて、置かず。

每每効を奏す。何ぞ、害あるを見んや。

蓋し、親試用いずして、臆度空論するによるなり。  
従前、区々の医説に惑うなかれ。

### 【意識・解説】

#### 〔試効〕

虐疾 腹満 喘息咳嗽を治療する。

痰を消し、気を下げる作用がある。

痢疾 食あたりで嘔吐止まざる者 宿食の消化で  
きない者 乾嘔の止まらない者 外邪による熱性  
疾患による急性嘔吐症で、食を吐く者などの消化  
器疾患関係を改善する。

\*東京生薬協会編集の新常用和漢薬集では

〈適用〉として、漢方処方薬で気を下し、腹痛、  
腹満、喘咳に用いられる。とあり、次のような記  
載がある。

「気を下し」には半夏・蘇葉との組み合わせで咽  
喉の異物感をとる。

〈薬方例〉：半夏厚朴湯〉

「腹満」には大黃との組み合わせで、便秘、腹満  
を改善

〈薬方例〉：大・小承気湯〉

人參との組み合わせで胸腹間の脹満をとる

〈薬方例〉：平胃散〉

梔子との組み合わせで胸腹間の煩満をとる

〈薬方例〉：梔子厚朴湯〉

「喘咳」には杏仁との組み合わせで喘咳を抑える。

〈薬方例〉：桂枝加厚朴杏仁湯〉

\*〔試効〕の薬効は神農本草経よりも名医別録の  
記載に近い。

#### 《参考》

神農本草経：中薬〈森立之本〉

味苦温 生山谷 治中風傷寒頭痛  
寒熱驚氣 血痺死肌 去三蟲

名医別録：大温 無毒 温中益氣 消痰下氣  
療霍乱及腹痛脹満 胃中冷逆  
胸中嘔不止 泄痢淋露 除惊  
去留熱 止煩満 厚腸胃

〔撰修〕

撰品：樹皮が極めて厚く、紫色。匂いが新鮮で、味がわずかに辛いのが良品である。

樹皮が薄く、陳久のもの。和産（日本産）で薬店が和厚朴と称している物は用いてはいけない。華産（中国産）が良い。

江戸時代、和厚朴と称している物は俗に福室樹【ホウノキ】と呼ばれている物である。

ホウノキは喬木で皮が赤く厚い。

\* 現在、ホウノキを基原とする国産（和厚朴）と中国産（唐厚朴）の両方が流通しているが、2：1で和厚朴の比率が高い。

\* ホウノキは山地或いは平地の林の中に生育するわが国特産の落葉大喬木で、幹の高さは凡そ20メートル、直径凡そ1メートルに達する。

形状は大いに華産に似ている、味もまた近似している。

但し、わずかに酸味を帯び、服用すると嘔き気を催すことがある。

花実は本草書に記載されている処と大いに異なる。蓋し、似て非なる者で、技術のない医者は和厚朴と稍して用いているが、誤治にならないのだろうか。考えてみるに、寇宗奭(コウソウセキ=宋代の医家、本草衍義20巻を著す)が「生姜を用いて修治しなければ、人の咽喉や舌を刺激する」と言っているが、これも実際に試していないのであろう。

半夏の乾燥したものを飲むと、咽喉が刺激されるように、厚朴の乾燥して細かくした者は未だかつて咽喉や舌を刺激したことはない。

宗奭は何を試みて、このように言っているのか。

或いは乾燥していない生は人の咽喉や舌を刺激するのだろうか。

一般に、生では辛く、乾くと甘くなる例、また生と乾きでは匂いが異なることがある。莱菔(ダイコン)がそうだ。

このような類は生乾の程度によって、気味の良しあしを分けることが出来るが、凡てには通用できない。

使用する時、樹皮の外側の鱗・皺状の粗皮を削り去り、白い部分を残してはいけない。

内部の紫色のところを取り、水を換えて、数回洗い、刻み細かくする。

生姜汁に浸すことは必要ない。いわんや酥(クリーム)の様にバター分の多い乳製品などを用いた修治などはしない。

但、簡単に炒って使用するだけで良い。

〔辨正〕

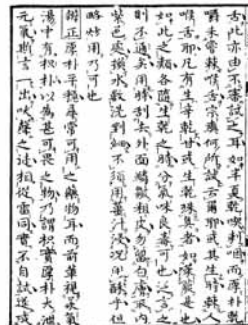
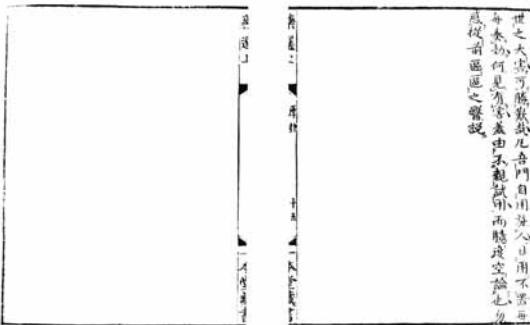
厚朴は緩和で普通に使用できる薬物であるが、先輩の医師たちは承気湯の中に枳実・厚朴が配合されているので、甚しく畏れていて、枳実や厚朴は大いに元気を消耗するという。

実際に自分で試さないで、一旦このことばが口から出ると、人から人へ伝わり、全ての人言うようになり、遂には世の中に大害をもたらすことは、まったく嘆かわしいことである。

凡そ、我が門では自家用の薬は施療する日に用いて、(余分の薬は)置かない。

いつも、効果がある。何で障害を見ることがあろうか。

思うに、実際に試用せず、臆測空論する。今までのそれぞればらばらの医説に惑されてはならない。



# ・ 委員会だより ・

## 総務委員会

委員長 赤須 通範

### 1. 総務委員会の開催

第1回：平成24年5月11日(月)開催

- (1) 「平成23年度事業報告(案)と収支決算(案)」について
  - ・平成23年度事業報告案の事業報告について項目ごとに確認を行い、一部資料の差し替え、文言等の訂正を行った。
  - ・決算案については会計基準に沿って枠組みを変更し、予備費項目の追加を行い、会計基準方式に統一した。
  - ・事業計画案、予算案共に了承された。
- (2) 「総務委員会委員長・副委員長等選任」について
  - ・赤須委員長の継続について、了承された。
  - また、体調を鑑み、委員長代行を置くこととし、加賀亮司氏が承認された。
  - ・副委員長には引続き、(株)ツムラの後任者、菅沢邦彦氏にお願いし、了承された。
  - ・新任として(株)ウチダ和漢薬から巽 義男氏が任命された。
- (3) 「会員の入退会(賛助会員の移行状況を含む)」について
  - ・個人賛助会員の移行については個人正会員：2名、サポーター：8名、退会：3名となった。
- (4) 平成23年度「ふれあいガーデン」共同事業体の収支決算について
  - ・原案通り承認された。
- (5) 「薬用植物指導員に関する規程」の改正案について
  - ・指導員の現状についてまとめた資料を作成いただく様、学術委員会に依頼した。
  - ・承認方法の変更については理事会にて決議いただく事とした。

第2回：平成24年10月22日(月)開催

- (1) 「新公益法人化に伴う検討事項」について
- 1) 今後のスケジュールについて
  - ①定款(案)、入退会規程、役員報酬規程等について
    - ・現在、東京都公益法人担当に書類を提出し、検討いただいている。
    - 返事をいただいた後、公益法人作業部会、総務委員会等で検討して、成案を理事会にかけて、申請する予定である。
    - ・承認の関係から、許可が出てから申請するまで、1ヶ月位の猶予が必要と考える。
    - ・3月の総会迄に申請は可能と考える。
    - ※申請期限：平成25年11月末までに移行申請をしなければ解散となる。
- (2) 平成24年度「OTC医薬品とセルフメディケーション」実施報告
  - ・9月4日(火)～5日(水)に新宿西口イベント広場で開催され、入場者は約3万人であった。
  - ・今回は薬学生による紙芝居に加え、紙芝居の専門家を交えて実施し、好評であった。
  - ・イベントに参画して5年経過したので、総括を行いたい。

・本会は、OTC医薬品では最大級の参加人数のイベントとして育っているため、来年以降も継続して行く方向である。

・今回は、多数のメディアから取材を受け、文化放送を聴いてから来場される方も見受けられた。

- (3) 平成24年度「薬草収穫感謝の会」について
- 1) 平成24年11月10日(土)実施案の確認、スケジュールの調整、役割分担について承認された。
- (4) 会員の入退会について
- 1) 会員数：平成24年11月20日現在
  - ・85名(法人正会員36名、薬局等正会員7名、個人正会員34名、サポーター8名)

## 60周年記念事業準備委員会

委員長 金原 徳典

1. 平成24年3月22日(木) 理事会・予算総会準備委員会委員委嘱
    - 委員長：金原 徳典 副会長：(株)金原市兵衛商店
    - 委員：赤須 通範 常務理事・総務委員会委員長
      - ク：小根山 隆祥 学術委員会委員長(金置会診療所)
      - ク：加賀 亮司 事業管理委員会委員長((株)龍角散)
      - ク：坪井 正樹 広報委員会委員長(大正製薬(株))
      - ク：森下 伸幸 理事推薦((株)建林松鶴堂)
  2. 平成24年8月10日(金) 記念パーティー会場「神田明神会館」仮押さえ(50名位) 平成25年11月8日(金)13:30～18:00 (設立記念日の11月2日は土曜の為、翌週金曜とした)
  3. 平成24年9月11日(火)
    - ・記念講演 タイトル・演者未定 受付14:30 開始15:00～16:00 40名予定
    - ・記念パーティー
      - \*会費事前徴収 50名予定
      - \*受付16:00 開始16:30～18:00
      - \*招待者は40周年・50周年資料を参考にして
      - \*ロゴマーク入り記念品(総務委員会検討)
  4. 平成24年10月22日(月)
    - ・平成25年中に「くすりの歴史展」を社団法人東京薬事協会と共催で考える
    - ・時期 未定
    - ・タイトル 未定
    - ・会場は昭和薬習ビル2F 201・202号室
  5. 平成24年11月20日(火) 理事会
    - 今までの開催報告
    - 平成25年1月に委員推薦
  6. 今後の予定
    - ・平成25年1月15日(火) 準備委員会
    - ・平成25年2月5日(火) 準備委員会
    - ・平成25年3月26日(火) 理事会、予算総会
    - ・平成25年5月28日(火) 理事会、決算総会
- 60周年記念事業概要を説明  
平成25年11月8日(金)「神田明神会館」にて
- ・記念講演会
  - ・記念パーティー 開催



## 学術委員会

委員長 小根山 隆祥

### 1. 植物観察会

春の植物観察会は4月22日(日)昨年秋と同じ開催地日黒・自然教育園にて4班に分かれて開催。

途中全員が集まって、磯田委員の「毒草に注意」の話聞いた。参加者57名。

秋の観察会は9月26日、奥武蔵観察会として、西武線東吾野駅からユガテ経由で武蔵横手駅までを4班に分かれて観察した。

途中全員が集まって、和田委員による「観察コースに生育しているシダ植物」の話聞いた。参加者：43名。

### 2. 薬用植物・生薬に関する講習会

一般を対象に平成24年10月～平成25年3月の間、計5回にわたり開催。テーマは「未病」。

「薬用植物・生薬に関する講習会」

【今年度変更点】

- 参加申し込み：全日程一括のみでなく、1日ごと個別の申込みが可能。
- 参加費：会員・非会員を問わず1日2講座単位で各回2,000円。(毎回受付時に徴収)
- 実施回数：12月を除き10月から3月まで5回開催。

開催日	12:30～14:00	14:15～15:45
【第1回】 平成24年 10月28日(日) 参加者:21名	未病に使用される漢方薬 社団法人 東京生薬協会 学術委員会 委員長 小根山 隆祥 先生	江戸から150年 今も生きている伝統薬 学校法人 日本大学 評議員 薬剤師 山内 盛 先生
【第2回】 平成24年 11月25日(日) 参加者:22名	未病と食事 一野菜を美味しく食べることの意義 お茶の水女子大学 生活科学部 食物栄養学科 准教授 森光 康次郎 先生	健康を維持するための5ヶ条 いざわ漢方クリニック 院長 伊澤 和光 先生
【第3回】 平成25年 1月27日(日)	漢方医からみた未病 医療法人社団 金匱会診療所 所長 山田 享弘 先生	心の漢方 一膳にしないために一 葛西クリニック 院長 葛西 浩史 先生
【第4回】 平成25年 2月24日(日)	生薬とお酒 薬用酒研究家 塩澤 太郎 先生	未病のための食生活・健康法 明治薬科大学 名誉教授 奥山 徹 先生
【第5回】 平成25年 3月24日(日)	女性のための漢方 東海大学 医学部 東洋医学講座 准教授 新井 信 先生	薬膳と未病先防 イスクラ産業株式会社 様

### 3. 薬用植物既認定指導者のフォローアップ研修

平成24年9月29日(土)東京薬科大学薬草園見学を実施。参加者16名

平成24年5月12日(土)に第1回目の薬草園内の樹木調査を実施。

第2回目を10月14日(日)に実施。

### 4. 生薬に関する懇談会

平成24年12月1日(土)星薬科大学において、第28回「生薬に関する懇談会」を開催した。テーマは「麻黄」。参加者296名

### 5. 薬草クイズラリー

平成24年7月22日(日)東京都薬用植物園で実施。参加者：午前81名(前年78名)、午後109名(前年75名)。

### 6. 日本薬局方原案審議委員会報告

A委員会3回、B委員会3回が開催され、各委員会の討議の結果が報告された。

### 7. 新常用和漢薬集 生薬ワーキンググループ

協会HPの「新常用和漢薬集」の生薬69種類・処方一覧・用語解説のリニューアル版を検討及び

作成した。http://www.tokyo-shoyaku.jp/f\_wakan/

## 事業管理委員会

委員長 加賀 亮司

平成24年度委託費上半期の予算執行額は、年間の予算額に対して約半数の24,168,954円で堅調な執行状況でした。

上半期の来園者は、梅雨明けまでは気温の低い日が続き、梅雨明け後から平成22年以来の猛暑となり、前年度より1,116人減の76,353人でした。なお、今年度の台風被害は、比較的少なく昨年度のように林地を閉鎖することはなかった。

平成24年度の啓発イベントは計画通り実施し、今後も予定通りに進めます。

草屋舎事業のイベントは年間12回計画し、7回は予定通り開催されました。協会の事業と重複しないように調整を図り、相互に連携し実施しています。

栽培管理では、今年度から農作業と樹木管理・園路草刈りを北部緑地(株)に委託したが、問題点も見受けられるので今後の管理体制について同社と現在検討中である。

### ●委員会活動

#### 1. 定期委員会

(1) 第1回事業管理委員会 5月8日開催

- 平成23年度受託事業報告
- 平成24年度委員会開催日程
- 委員会活動の確認と運営

(2) 第2回事業管理委員会 8月10日開催

- 第1四半期事業管理の報告
- 栽培管理

(3) 第3回事業管理委員会 9月11日開催

- 平成24年度事業報告
- 平成25年度事業計画の検討

#### 2. ワーキンググループ

第1回会議 平成24年4月10日

第2回会議 平成24年6月12日

第3回会議 平成24年7月10日

第4回会議 平成24年10月30日

## 広報委員会

委員長 坪井 正樹

「会報」454号をお届けします。

会報453号から全ページをモノクロにするとともに、24ページから16ページ立てとしてコンパクトに纏めました。今会報に関する皆様のご感想をお聞きたく、今会報と一緒にアンケート用紙を同封致しました。今後の編集方針の参考とさせて頂きたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せ頂ければ幸いです。また、現在準備を進めている公益法人化を展望して、一般の方々にも読みやすい内容を掲載することで、広くアピールできる会報にしていきたいと考えています。

平成22年10月1日にリニューアルしたホームページがスタートして2年が経過しました。訪問数、ユーザー数、ページビュー数ともに以下の通り着実に増加しており、リニューアルの効果が実感できます。今後とも「お花の見頃情報」などの東京都薬用植物園の情報や当協会が主催する最新イベント情報など、常に新しい情報を掲載していきます。



会報には年間のイベントを一覧表にしていますので、多くの会員の皆様にご参加頂きたいと思えます。また、日本薬局方第16局改正に伴い、既記載の「新常用和漢薬集」の内容を見直し、局方に準じた内容にしています。ご感想やお気づきの点がありましたらお知らせください。

《ホームページへのアクセス状況》

	(ユーザー数)	(訪問数)	(ページビュー数)
2011.4.1～2011.9.30	3,067	1,718	12,144
2011.10.1～2012.3.31	2,898	1,517	11,597
2012.4.1～2012.9.30	5,470	2,875	25,155
2012.10.1～2012.12.31	2,279	4,528	17,510

2012.4.1～2012.9.30の6か月間は訪問数、ユーザー数、ページビュー数ともに大幅に増加しており、また2012.10.1～2012.12.31の3か月間も順調に増えています。

連絡事項

●平成24年度第2回理事会

【日時】：平成24年11月20日(火)15:00～17:00  
 【会場】：薬業年金基金会館3F第2会議室  
 【議案】：

1. 審議事項

(1) 会員の入退会について

- ・ 入会 1件  
 法人正会員：株式会社山崎帝國堂  
 (代表取締役社長 竹内彪衛氏)  
 (東京都中央区日本橋室町4丁目5番1号)
- ・ 退会 4件 (届出順)  
 薬局等正会員：合資会社吉野薬局  
 吉野勝彦氏(神奈川県横浜市)  
 法人正会員：株式会社守田治兵衛商店  
 守田千恵氏(東京都台東区)  
 個人正会員：相見則郎氏(千葉県千葉市)  
 個人正会員：矢原正治氏(熊本県熊本市)
- ・ 平成24年11月20日現在の会員数：85名

法人正会員 36名 薬局等正会員 7名  
 個人正会員 34名 サポーター 8名

2. 報告事項

- (1) 平成24年度上期事業報告と収支決算について
- (2) 「新公益法人移行申請」進捗状況について
- (3) 新公益法人へ向けた理事等の追加変更について
- (4) 「薬草収穫感謝の会」実施報告について
- (5) 平成24年度「OTC医薬品とセルフメディケーション」実施報告について
- (6) 各委員会報告
- (7) その他
  - ・ 国内生薬栽培支援の取り組みについて  
 (株式会社金井藤吉商店 澤村雅康氏)
  - ・ 株式会社金井藤吉商店 代表取締役社長 金井藤雄氏「平成24年度東京都功労者」表彰について  
 (受章のお祝いは平成25年1月22日「平成25年賀詞交歓会」の席上にて行う予定)
  - ・ 薬用植物国内栽培化検討委員会(仮称)設立と委員参加のお願い

● 行事報告及び予定 下記のイベント一覧表をご参照ください。

イベント名	テーマ	日程	会場	講師(敬称略)	参加人数	
植物観察会	春	平成24年 4月22日(日)	目黒・自然教育園	小根山 隆洋・和田 浩志・高橋 広之・磯田 進	57	
	秋	平成24年 9月16日(日)	埼玉 奥武蔵	小根山 隆洋・和田 浩志・高橋 広之・磯田 進	43	
白神山視察研修会		平成24年 6月 7日(木)～9(土)	秋田県八峰町	金井 藤雄(株式会社金井藤吉商店)	16	
OTC医薬品とセルフメディケーション(6団体共催事業)		平成24年 9月4日(火)・5日(水)	新宿西口イベント広場		30,000	
薬草生け花展(薬祖神事協会協力事業)		平成24年10月17日(水)	昭和健康ビル	中山 麗子(草屋舎テクニカルスタッフ)	2,423	
薬草収穫感謝の会(4団体共催事業)	和漢食材による病気ににらいく食事法	平成24年11月10日(土)	東京都薬用植物園	講演：鳥居塚 和生(昭和健康薬学部教授) 園内見学会：小根山 隆洋 他3名	93 89	
生薬に関する懇談会(生薬学会と共催)	痛癢	平成24年12月 1日(土)	星薬科大学	神谷 洋・御影 雅幸・針ヶ谷 哲也・嶋山 武志	296	
薬用植物・生薬に関する講習会	詳細は学術委員会報告を参照					
薬草教室	第1回	シーボルトと日本の薬草	平成24年 4月25日(水)	東京都薬用植物園	和田 浩志(東京理科大学薬学部)	109
	第2回	ネパールと日本を結ぶ食と薬草	平成24年 5月24日(木)	〃	南雲 清二(星薬科大学名誉教授)	124
	第3回	循環器の病氣と漢方	平成24年 6月21日(木)	〃	大野 修嗣(大野クリニック)	73
	第4回	散歩道で薬草を探そう	平成24年 7月26日(木)	〃	指田 豊(東京薬科大学名誉教授)	77
	第5回	里山の隠れた薬草	平成24年 8月29日(水)	〃	磯田 進(昭和健康薬学部非常勤講師)	76
	第6回	ストレスと漢方	平成24年 9月26日(水)	〃	新井 信(東海大学医学部)	52
	第7回	植物成分(精油)の薬効	平成24年10月24日(水)	〃	北島 潤一(昭和健康薬学部教授)	80
	第8回	奥多摩の薬草	平成24年11月21日(水)	〃	吉澤 政夫(森林インストラクター)	69
薬草観察会	春	園内観察会	平成24年 5月27日(日)	〃	薬用植物園職員、東京生薬協会職員	70
	秋	園内観察会	平成24年 9月30日(日)	〃	薬用植物園職員、東京生薬協会職員	41
イベント事業	第1回	爽快 アロマテラピー	平成24年 4月 7日(土)	〃	鈴木 悦子(NPOジャパンハーブソサエティ理事)	19
	第2回	やさしい薬草栽培	平成24年 4月21日(土)	〃	鈴木 幸子(東京生薬協会)	40
	第3回	朝顔を育ててみませんか入門編	平成24年 4月28日(土)	〃	浅岡 みどり(グリーンコーディネーター)	16
	第4回	ケシのパネル展	平成24年 5月 1日(火)～25日(金)	〃	展示	
	第5回	ケシのミニ講座	平成24年 5月12日(土)・13(日)	〃	ケシ外側フェンス開放	153
	第6回	薬膳 春から夏へ	平成24年 5月26日(土)	〃	近藤 美春(薬膳研究家)	51
	第7回	ハーブを楽しむ	平成24年 6月 9日(土)	〃	小泉 美智子(ハーブ研究家)	29
	第8回	ラベンダースティックをつくろう	平成24年 7月14日(土)	〃	神蔵 いくよ(神蔵農園)	34
	第9回	薬草クイズラリー	平成24年 7月22日(日)	〃	東京生薬協会	190
	第10回	薬っぱを使って絵を描こう～夏休み子供植物教室～	平成24年 8月17日(金)	〃	中山 麗子(草屋舎テクニカルスタッフ)	20
	第11回	活き活きリース	平成24年 9月15日(土)	〃	高橋 清美(アトリエclover主宰)	20
	第12回	薬になる動物と植物	平成24年10月11日(木)	〃	清水 虎雄(東京生薬協会)	52
	第13回	秋の薬膳	平成24年10月13日(土)	〃	近藤 美晴(薬膳研究家)	29
	第14回	立冬 薬草の手湯、足湯	平成24年11月17日(土)	〃	小根山 隆洋(金匱会診療所)	31
	第15回	木の葉・草の美リース作り教室	平成24年12月19日(水)	〃	中山 麗子(草屋舎テクニカルスタッフ)	
	第16回	万葉集と薬草	平成25年 1月24日(木)	〃	木下 武司(帝京大学薬学部教授)	
	第17回	健康講座(薬事協との共催)	平成25年 2月13日(水)	〃	日南田 淳子・石川 泰弘	
	第18回	早春の植物	平成25年 3月 9日(土)	〃	吉澤 政夫(森林インストラクター)	
	第19回	香辛料の魅力	平成25年 3月16日(土)	〃	S&B食品	
薬用植物指導員認定者フォローアップ研修	春	平成24年 5月12日(土)	〃	清水 虎雄・小根山 隆洋・山内 豊・磯田 進	16	
	夏	平成24年 9月29日(土)	東京薬科大学 薬草園	小根山 隆洋・磯田 進	16	
	秋	平成24年10月14日(日)	東京都薬用植物園	清水 虎雄・山内 豊	6	
行政との意見交換会		平成25年 3月	昭和健康ビル			

**(表紙) レンギョウの解説**

● 東京薬科大学 名誉教授 指田 豊 ●

サクラの咲く本格的な春が来る少し前、3月下旬になると垣根や庭木のレンギョウが鮮やかな黄色の花を付け、心うきうきする春がすぐ近くまで来ていることを我々に告げてくれる。

レンギョウの仲間（レンギョウ属 *Forsythia* spp.）はモクセイ科 *Oleaceae* の落葉低木である。株は高さ2 - 3 mほどになり、株立ち状態で多数の枝を出す。葉は対生し、単葉でまれに基部で3裂することがある。

花冠は黄色で4深裂する。果実は木質で、表面に小さな瘤が点在し、熟すと2裂する。

日本にはヤマトレンギョウ、ショウドシマレンギョウが野生するが、これらは西日本の限られた地域に生える稀な植物である。庭木として我々の周りで見られるレンギョウは以下の種類で、すべて外国原産である。

**レンギョウ *F. suspensa* (Thunb.) Vahl (図1)**

中国原産。枝は細く、上部が下垂し、地面に触れると発根する特性がある。枝は中空。葉は卵形で、まれに基部で3裂することがある。花は葉が展開する前に開花する。果実の柄が0.7 - 2 cmあり、他のレンギョウより長いのが特徴である。

**シナレンギョウ *F. viridissima* Lindl. (図2)**

中国原産。枝は直立し、中空ではなく、縦に切ると薄片状の髓が梯子段のように並んでいる。葉は倒卵状長楕円形で中央より上部が最も巾が広く、また、上半部に不規則な鋸歯がある。花は葉の展開と同時に咲き、やや緑色を帯びた黄色である。

**チョウセンレンギョウ *F. koreana* Rehd.**

朝鮮半島原産。枝は直立せず、横に広がる。中空ではなく、縦に切ると薄片状の髓が梯子段のように並び、節の部分のみ髓が詰まっている。葉は楕円形～卵形で、中央部よりも下部が最も巾が広く、葉縁は基部を除いてははっきりした鋸歯がある。花は葉の展開前に開き、やや黄赤色を帯びた黄色。

**アイノコレンギョウ *F. xintermedia* Zab.**

ヨーロッパでレンギョウとシナレンギョウを交配して作出された植物。多数植えられているが、両親と区別することが容易ではない。

**薬としてのレンギョウ (図3)**

日本薬局方では生薬、レンギョウ（連翹）はレンギョウとシナレンギョウの果実と規定している。

生薬はすべて輸入品。中国の山西、河南、陝西、山東などで広く栽培されており、山西、河南からの産出が多い。

**レンギョウの漢方における使われ方**

苦、平で、血剤として働く。傷寒による病気、すなわち寒さからくる病気ではなくて、温病、すなわち熱からくる病気の要薬である。消炎、利尿、排膿薬として各種の炎症に用い、特に、温病による喉の腫れに使われる。

**レンギョウの成分**

トリテルペノイド：betulinic acid、ursolic acid、oleanolic acid。リグナン：phillygenin、(+)-pinoselinol、matairesinol。フェニルエタノイド配糖体： $\beta$ -hydroxyacteoside、forsythiaside、acteoside、など。フラボノイド：rutin、quercitrinなど。

**レンギョウを含む漢方処方**

響声破笛丸、銀翹解毒散、荊芥連翹湯、驅風解毒散、防風通聖散など。響声破笛丸は応援、演説、歌の歌い過ぎなどで喉が荒れたときに口の中で徐々に溶かして使う薬である。



図1 レンギョウ



図2 シナレンギョウの花



図3 生薬、レンギョウ

No.454

東京生薬協会会報

発行/社団法人 東京生薬協会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-11-4  
東神田藤井ビル2F  
TEL・FAX 03-3866-5522  
<http://www.tokyo-shoyaku.jp/>  
発行/2013年1月17日